



1909年製 オーシャン・ツー・オーシャン・レーサー (複製)



製造情報

製造商	フォード自動車
組付工場	ピケットアベニュー工場、デトロイト、ミシガン州
モデル生産量	2
総生産量	10,660
馬力	22
重量	900ポンド/408キログラム
当時売価	?

イノベーション(ポイントのみ)

レースのため、モデルTから余分な装備を完全に取り除いて軽量化:

金属製フェンダー無し

後部座席無し

フロントガラス無し

金属製の車体は無し

「いくらか」の快適さのため、特別なバケットシートが付けられた

大陸横断レース勝者

1909年6月1日にアラスカ・ユーコン太平洋博覧会がシアトルで開催となり、鉱業会社のオーナーで資産家であったロバート・グッゲンハイムはその宣伝に関心を持った。それまで、ニューヨークからシアトルのあるアメリカ太平洋側まで横断した車はなかったため、大西洋側から太平洋側へ大陸横断の自動車レースの開催より面白いものはないだろうと、グッゲンハイムはレースの勝者に2500ドルの賞金と3500ドルの金のトロフィーを贈呈すると発表した。レースに参加したのは、モデルTが2台、アクメ、イターラ、ショーマツ、そしてスターズスの6台だけであった。他の車に比べ、モデルTはかなり軽量だったが、エンジンは他の車の方が非常にパワフルものを搭載していた。全ての車両は、国中にある30箇所のチェックポイントを通すしなければならなかった。22日後、モデルTの第2番が最初にゴールラインを切った。しかしその数カ月後、フォード第2番の車について、チェックポイントの1つに疑いを生ずる記録が明らかとなり、グッゲンハイムは賞の授与を取り下げ、ショーマツが事実上の勝利だったと宣言した。しかし非常に賢明なことに、ヘンリーはモデルTがレースに勝ったとすでに世界中に公表しており、賞の取り消しが世間の関心を大きく得ることはなかった。

フロリダ州オデッサ在住のミルト・ロールダ氏より貸借。2009年、太平洋横断自動車レース100周年走行に、ロールダ氏はこの複製車で参加。氏とその他54台のモデルTが、ニューヨーク州ホワイトプレインズからワシントン州シアトルまで旅し、レースの再現は4400マイル以上に及んだ。